

学校生活チェック表 (第3版-2 2012.0711)

(1週間で1枚になっている例)

ページごとに目標の欄があって、1ヶ月単位で目標を変えていくのもよい。できたら変えろとか、できなかったら、ハードルを低くするなど、実現しやすいことから始める。

家でも学校でも褒められない子には効果が現れやすい。

保護者が家の中でよかったことを褒めても学校の生活がよくなることはない。学校であったことを保護者が褒めることで、学校での望まれる状態(生活態度)が分かりやすくなる。

休み時間のトラブルの多い場合は、休み時間の欄を作る。

表の見方がわからない子には1日で1ページのものを用意する。つい、長いコメントを書いてしまい継続できないことがあるので、要注意。

じゅぎょうはしずかにする!
がんばろう!

	4/18	4/19	4/20	4/21	4/22
1	○	△			
2	△	🌸			
休	△	×			
3	○	🌸			
4	○	△			
給	×	×			
休	○	△			
5					
	×1コマ がんばら ね 😊	1はなま 2つに なしたね 😊			

静かだったら手遊
びは、「ま、いいか
…」とする。

チェック表のサンプル







目的

- 1) こどもには
 - ・ 自分の状態が把握しやすいこと。
- 2) 保護者の方へ
 - ・ 褒める材料を提供するものでもあるので、ついガミガミ言ってしまうたり、「しなさい」の多い場合には、「褒める材料」であることを十分に意識すること。
- 3) 取り巻く大人には
 - ・ 長い文章の連絡帳は先生・保護者の双方に負担になっていることがある。簡単で子どもにわかりやすいもの、長く続けられるものを作る。

手順とか

- ・ 保護者・学校間で、基準を明確(単純明快)にする。何について評価しているのか明確にすること。×について触れないことを確認する。
- ・ 評価となる目標は、1つで実現しやすい具体的なものから。
- ・ マルに注目して、数によって褒める度合いを決めておくこと、保護者に約束を求める。
- ・ コメントは保護者が短く書くこと。長く書くと、こどもががんばった時にもっと長く書かなければ…となって、長続きしない。マルの数で3~5個なら「がんばったね。」とかガイドラインを作っておくと楽。
- ・ コメントには、マークやシール・ハンコなど1ポイントがあると良い。
- ・ 場合によっては、自己評価でもよい。1日の振り返りをしながら、自分で正しく×を付けられれば、それは、褒める材料である。そんな時は「自分で解ってれば、直せるよね」と声掛け。

「今日はがんばったからブタノハナマル！」とかいいながら書くとよい。ガラパゴスな花丸も人気がある。

	ブタの鼻(?)マル		でんでんむしマル		アンモナイトマル 化石の好きな子には受ける
	花束マル		チューリップとか		こどもがご褒美に「ザク」と言ったら、この程度のもの